



(1年生普通科・総合科学科)

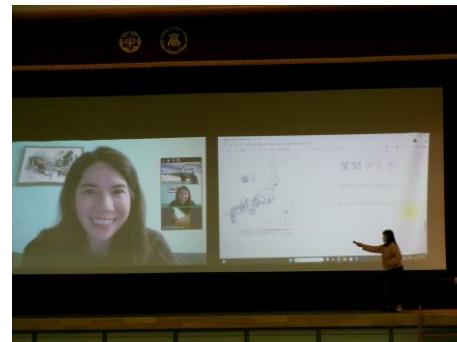
探究活動講演会を開催しました！

～『日系人』とはどんな人？地域の歴史をもっと身近に～

12月10日、京都外国语大学 河上幸子教授をお迎えして、『日系人』について知ることを通じて、探究学習とは何か、どのような資料から情報を得ることができるか、その際に大切にしなければならないことは何か、などについて教えていただきました。

まずはオンラインで美浜町にルーツを持つカナダ在住の日系人、ケリーさんにインタビューを行い、和歌山についてどのような思いを持っているのか知ることができました。その後、『グランドフォーカス在留日本人寫眞帖』を閲覧し、そこに写る人たちが、80年前の戦時中どこでどのように生活していたのかを、デジタルアーカイブ “Landscapes of Injustice” を使って調べました。

慣れない英語のサイトを使う難しさもありましたが、これまで遠い存在だった私たちの祖先が、急に身近に感じられた瞬間でした。私たちの地域について、そして探究活動について新たな学びが得られる良い機会となりました。



探究活動講演会に参加して～振り返りシートより～



ケリーさんのひいおじいさんの話を聞いた時、私も最近大おじさんの話を母から聞いたことを思い出した。私の大おじさんはシベリアに捕虜として滞在していたことがあるらしく、その頃の手紙が蔵を掃除していたときに出てきたそう。どんな気持ちでどのようにすごしていたか、私は顔も見たことがなかったけれど、知っておくべきだと思って、母に今度その手紙を見せてもらう約束をした。おそらくケリーさんもひいおじいさんの写真があると聞いた時、思ったと思う。会ったこともない人だけど、自分は見るべきだ、知るべきだと。たとえ過去のことだとしても、知ろうとすること、関わろうとすることを諦めてはいけないと、今回の講演で感じることができた。

1946年の写真や戦後にカナダから日本へ帰ってきた人の話などから、身近な人の経験こそが「歴史」なんだと感じました。教科書に書かれていることだけが歴史ではなく、自分の身近なおじいさんや家族、祖先の経験も、後世に残すべき大切な記録になると気づきました。「パブリックヒストリー」という考え方も印象的でした。これまで学べなかった教科書に載っていない歴史が、今ではデジタル・アーカイブなどを通して無料で誰でも学べることにびっくりしました。その一方で情報が簡単に広がるからこそ、モラルや倫理を意識し、すべてを拡散してよいわけではないという責任も伴うことを理解するのが大切なんだと、背景を知り、ルールを守ることの重要性を強く感じました。

講演の最後に、河上先生から、京都外大生と「海猫屋」が開発した、シーグラスを模したキャンディ、「うみねこグラス」をいただき、海を渡った私たちの祖先を想う素敵なお土産になりました。

